

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人
第5学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人

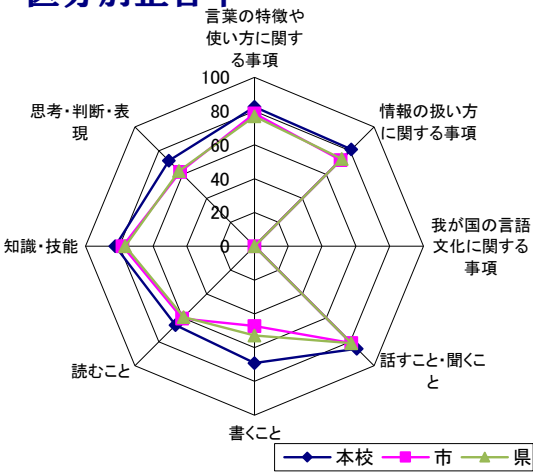
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	82.5	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	81.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	85.7	81.0	81.1
	書くこと	69.1	47.2	52.8
	読むこと	66.1	60.5	59.3
観点	知識・技能	82.4	78.0	76.5
	思考・判断・表現	71.7	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

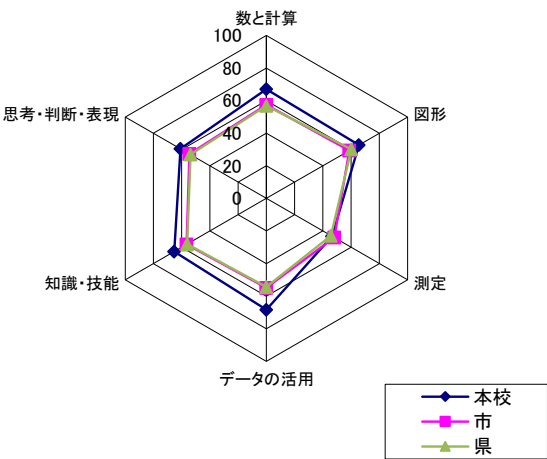
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より3.9ポイント高い。 ○漢字の読みについては、全ての設問で市の平均を上回った。 ○主語と述語の関係を問う設問では、正答率が市の平均より22.1ポイント高い。 ●漢字の書きについては、正答率が市の平均を下回った設問があり、課題が見られる。	・音読や漢字の読み書きの練習を習慣化し、基礎基本の定着を図る。また、漢字の意味だけでなく、熟語の構成や使い方も丁寧に指導し、生活の中でも積極的に習った漢字を使いこなせるように指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より8.8ポイント高い。 ○国語辞典に載っている言葉の順番を問う設問では、正答率が市や県の平均を上回っており、国語辞典の使い方を理解し、使うことができています。	・日常的に分からない言葉は調べる習慣を身に付けられるよう指導していく。 ・一人一台端末に偏ることなく、授業の中で国語辞典を活用することにより、国語辞典の使い方に慣れさせるとともに、語彙を更に増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より4.7ポイント高い。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では、正答率が市の平均を14.4ポイント上回っており、話し合いのテーマに沿って自分の考えや理由を伝えることができています。 ●司会者の役割や話し合いにおける司会者の発言についての理解が不十分であった。	・話し合い活動の際に、司会の役割を経験させ、相手の発言を整理しながら話し合いを進める力を身に付けられるようにする。 ・授業の中で、相手の発言を簡潔に言い直したり、聞き返したりする場面を意図的に設け、話し手が伝えたいことの中心を捉える力を高める。
書くこと	平均正答率は、市の平均より21.9ポイント高い。 ○指定された長さで文章を書いたり、自分の考えや理由を明確にして文章を書いたりする設問では、市の平均を上回っている。 ●2段落構成で文章を書く設問では、正答率が市の平均を12ポイント上回ったものの、正答率が47.6%と低い水準であった。	・「始め・中・終わり」という組み立てや文字数を意識して書くことができるよう、条件を提示した書く活動を取り入れる。 ・作文指導では、構成を意識しながら書き進められるよう、文章の書き方の例を示して習得させ、書くことへの抵抗を減らす指導を行う。
読むこと	平均正答率は、市の平均より5.6ポイント高い。 ○説明文の中で、指示語が何を示しているかを問う設問では、正答率が市の平均より16.2ポイント高い。 ●中心となる語や文を見つけて要約する設問では、正答率が市の平均を5.0ポイント上回ったものの、正答率が28.6%と低い水準であった。	・説明文の学習では、順序を表す言葉や、指示語が示している内容に線を引きながら読み進めるなど、内容を捉える活動を充実させる。 ・物語文の学習では、中心人物の性格、各場面の出来事、気持ちの変化などの観点を示し、観点に沿って読み取る指導を行う。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.0	57.4	56.9
	図形	65.5	58.7	60.1
	測定	46.4	48.1	45.7
	データの活用	68.3	54.9	54.3
観点	知識・技能	65.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	60.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

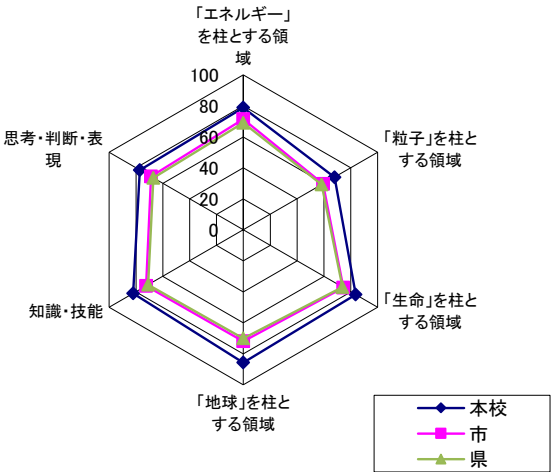
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均より約10ポイント高い。 ○分数の表す大きさや2けた×1けた＝3けたの計算の問題の正答率は、それぞれ100%であった。 ○数量の関係について口を使って表された正しい図を選ぶ問題の正答率は、95.2%で市の平均より14.2ポイント高かった。 ●余りの考えをもとに、計算の間違いを説明する問題の正答率は、市の平均より5.9ポイント低かった。	・朝の学習や家庭学習の中で、計算ドリルやAIドリルなどを活用しながら繰り返し計算練習等を行い、今後も基本的な学習内容の更なる定着を図っていく。 ・計算の仕方や答えの確かめ方について説明するような活動を取り入れていく。 ・テープ図や数直線、具体物などを用いて数量の関係を表したり、数の処理の仕方を説明する機会を多く設けたりしていく。
図形	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○箱の横の長さから球の半径を求める問題の正答率は、市の平均より14.9ポイント高かった。 ○正三角形を作図する問題の正答率は、90.5%で市の平均より15.0ポイント高かった。 ●二等辺三角形の性質を理解し、3つ目の頂点を見つける問題の正答率は市の平均より低かった。	・図形の学習では、デジタル教科書等のICTを活用して視覚的に捉えながら図形の性質の理解を深める。 ・図形の性質を生かした作図の仕方について話し合ったり、コンパスや定規などで図を描く際には個に応じた丁寧な指導を行ったりしていく。
測定	平均正答率は、市より低い。 ○時間が経過する前の時刻を答える問題の正答率は、市の平均より4.7ポイント高かった。 ●はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題の正答率は、市の平均より11.3ポイント低かった。	・日常生活の中で時刻と時間を意識するようにしたり、様々な問題場面で時間について考えさせたりすることで、問題を適切に解決する力を養っていく。 ・学校生活の中で、身近にあるものの重さを予想したり、さまざまな種類のはかりを用いて目盛りを読む活動を取り入れたりすることで、重さの感覚を養っていく。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える問題の正答率は81.0%で、市の平均より20.0ポイント高かった。 ○目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題の正答率は、市の平均より9.0ポイント高かった。	・今後も学校生活や他教科の授業などにおいて、様々なグラフを活用したり、適切なグラフを選択することができるように、そのグラフを選んだ根拠を説明する活動を取り入れたりしていく。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	78.8	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	67.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	83.7	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	85.7	72.0	70.1
観点	知識・技能	82.1	72.5	70.9
	思考・判断・表現	77.2	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より7.4ポイント上回っている。 ○ほとんどの設問に置いて、市の平均を上回っている。 ●音の伝わり方に関して、声が一人だけに聞こえた点から糸電話をつまんだ場所を推測し、聞こえた人物を選ぶ問題では、活用的な問題の問い方に対して、理解していない児童が多い。	・実験だけではなく、実際に体験するなど実生活の中で科学的事象を活用している場面等を紹介し、理解を深めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より8.6ポイント上回っている。 ○すべての設問で、正答率が市の平均を上回っている。 ○粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ問題の正答率は、市の平均より25.4ポイント上回っている。実験を行い、予想を立てる際に先を見通して結果を考えられる児童が多い。	・今後も実験の計画や予想を立てる際に、見通しをもった授業展開ができるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より9.2ポイント上回っている。 ○すべての設問で正答率が市の平均を上回っている。 ○植物の成長の過程を正しく選ぶ問題やクモが昆虫かどうか判断する問題の正答率は、市の平均より20ポイント以上、上回っている。生物の成長の過程や分類を正しく判断できる児童が多い。	・身近にある生物も話題に出しながら復習し、知識の定着を図る。また、日常生活と関連させて科学的事象の復習を行っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より13.7ポイント上回っている。 ○すべての設問で正答率が市の平均を上回っている。 ○影のでき方や日なたと日陰の温度について正しい結果を選ぶ設問の正答率は、市の平均を15.9ポイント上回っている。太陽の位置と影の関係を理解している児童が多い。	・今後も実験を正しく行い、結果をまとめることで、知識の定着を図っていく。また、日常生活と関連させて科学的事象の復習を行っていく。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語・社会・算数・理科の学習は好きですか。」の設問では、すべての教科で県の肯定割合を大きく上回った。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」と回答した児童の割合は100%であり、学習への意欲や主体的に学ぼうとする姿勢が感じられる。今後も児童の学びの意欲を大切にしながら、学ぶ楽しさを感じられる授業展開を工夫していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」と回答した児童の割合は、県の平均より高い。学校生活や家庭生活、友人関係等で児童が充実した時間を過ごすことができている様子がうかがえる。今後も、家庭との連携を図りながら児童のよりよい成長に寄与できるよう努めていきたい。

○「自分はクラスの人役に立っていると思う。」と回答した児童の割合は、県の平均より10ポイント以上高い。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」と回答した児童の割合は100%であった。本校児童の自己肯定感、有用感が高い様子がうかがえる。これからも児童のよさを認め、自信をもって判断したり活動したりできる児童の育成を目指して指導を続けたい。

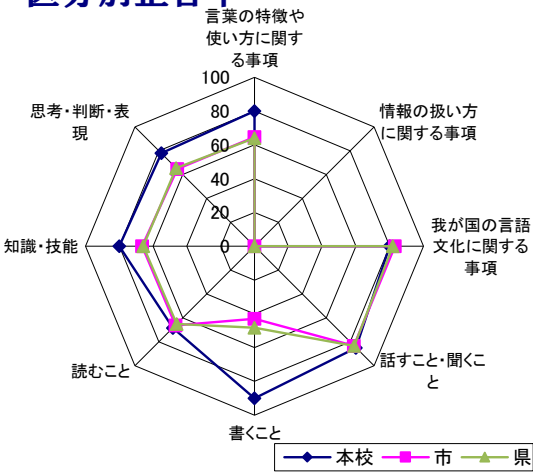
●「クラスは発言しやすい雰囲気である。」と回答した児童の割合は100%であったが、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「自分の発言や行動に自信をもっている。」の設問では、どちらも県の肯定割合を17ポイント下回った。互いの意見を認め合える環境づくりに努めていくとともに、授業中だけでなく普段の生活から自分の考えを相手に伝える機会を設けることで、自分の考えや意見を表現することに対する苦手意識を減らしていく。

●「学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。」の設問では、「全くしない」と回答した児童の割合が県の平均を上回った。また、「読書をしている」と回答をした児童の1日当たりの読書をする時間は、県の平均と比べて短い時間となっていた。懇談会や学年だより等で保護者への啓発を図り、学校外でも読書に親しませたい。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.0	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	85.0	83.3	83.4
	書くこと	90.0	42.8	48.2
	読むこと	68.3	66.1	65.1
観点	知識・技能	80.0	66.5	65.9
	思考・判断・表現	77.9	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

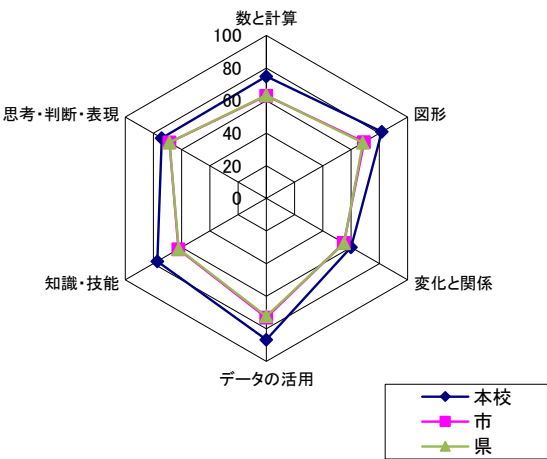
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より15.3ポイント高い。 ○漢字の読み書き、熟語の成り立ち、連用修飾語、言葉の活用全ての問題において、市の正答率を上回っている。	・新出漢字を学ぶ際、漢字のもつ意味について話題にしたり、既習の漢字を使った熟語を作らせたりと工夫して指導し、定着を図る。また、熟語で漢字練習をさせたり、漢字を用いて文を書く時間を設けたりする。 ・物語や説明文の単元において、修飾語に着目して文構造を考えたり、言葉の意味を確認したりしながら、読み取りを行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より3.1ポイント低い。 ●慣用句の意味を理解し、自分の表現に用いる問題については、市の平均より3.1ポイント低い。	・朝の学習等の時間に多様な慣用句にふれ、使い方を知ったり、日常生活の中で活用したりすることにより、言葉への関心を高めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より1.7ポイント高い。 ○話し手の工夫を捉える問題や、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題において、市の平均を上回っている。 ●参加者の発言の内容を基に、司会者の発言に適する内容を書く問題において、市の平均を下回っている。	・話し合い活動の中で、出てきた考えの共通点や相違点に着目し、互いの意見に対する考えなどをメモするなど、要点を押さえながら話し合いを行う。
書くこと	平均正答率は、市の平均より47.2ポイント高い。 ○資料を基に自分の考えを書く問題では、文章の長さ、段落構成、資料から読み取った事実、それに対する自分の考えの全ての注意点において、市の平均を大きく上回っている。	・引き続き、条件に合った文章を書く活動を取り入れることにより、書く力を身に付けさせる。また、一人一台端末を活用してプレゼンテーションの制作をするなど、自分の考えを書く活動を取り入れた授業を行う。
読むこと	平均正答率は、市の平均より2.2ポイント高い。 ○登場人物の気持ちを想像する問題、登場人物の気持ちの変化を想像する問題、発言者を選ぶ問題、文章の内容を捉える問題、要約する問題において、市の平均を上回っている。 ●文章を読んで感想や考えをもつ問題、文章中の指示語の内容を捉える問題、文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題において、市の平均を下回っている。	・文章を読んで感想や考えをもち、それを基にグループで共有する活動を多く取り入れる。 ・文章の読み取りを行う際、指示語の内容を捉える時間を設ける。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.9	63.0	63.3
	図形	81.7	69.2	68.3
	変化と関係	60.0	54.8	55.0
	データの活用	86.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	77.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	74.1	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

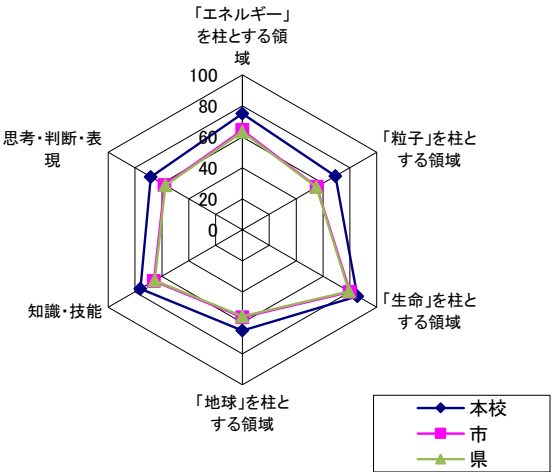
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より11.9ポイント高い。 ○2つの小数について、もとにする小数のいくつ分かで大きさを比べる問題、数直線上の目盛りを読み取り、仮分数で表す問題、小数第一位÷整数の計算の正答率は、市や県の正答率より高い。	・小数のかけ算やわり算などの計算は、正答率が高いが、帯分数の仕組みを説明したり、計算の間違いを説明したりする問題や、文章問題に対しては無解答の割合が多かったため、日頃から難しい計算に触れたり、文章問題に取り組ませたりすることにより、抵抗感なく問題に取り組めるように引き続き指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均より12.5ポイント高い。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、市の正答率より26.1ポイント高く、三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題では、市の正答率より15.4ポイント高い。 ●立方体と直方体の違いを選ぶ問題では、市の正答率より6.1ポイント低かった。	・立方体の展開図では実物を使い、平面と立体とを結び付けられるようにする。 ・図の特徴や複数の説明を読み取り、課題について筋道を立てて考えながら、練習問題に取り組ませる。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より5.2ポイント高い。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、市の正答率より11.0ポイント高く、表から伴って変わる2つの数量の関係を答える問題では、市の正答率とほぼ同じだった。	・引き続き、伴って変わる2つの数量について、表から式に表せるよう、様々な問題に取り組ませる。
データの活用	平均正答率は、市の平均より13.6ポイント高い。 ○折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題、二次元表の空欄に数を入れる問題では、正答率が100%と、市の正答率より25ポイント以上高い。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから読み取る問題では、市の正答率より8.7ポイント低い。	・折れ線グラフや二次元表の基礎基本を押さえた指導をすると共に、文章問題に慣れ、他の教科で折れ線グラフや棒グラフが出題されたときも想起、発展的に考えられるようにする。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	69.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	85.6	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	65.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	76.0	66.0	65.3
	思考・判断・表現	68.2	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より10.7ポイント高い。 ○電流が流れない回路から、流れない理由を考える問題では、市の平均より15.8ポイント高い。 ○直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて答える問題では、市の平均より13.2ポイント高い。	・電気の仕組みについては、ICTを活用して動画視聴したり、モデル図を使って視覚的に説明をしたりすることで理解を図っていく。実験や観察の技能についても繰り返し指導するとともに、基本的な観察の技能や器具の扱い方については、その都度確認し、定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より13.9ポイント高い。 ○すがたをかえる水の「気体」「液体」の違いについて答える問題では、市の平均より37.9ポイント高い。 ●温められた空気の動きを活用したエアコンの吹き出し口の向きについて考えを記述する問題では、市の平均より5.3ポイント低い。	・知識・技能を問う設問の正答率が高いため、今後は実験結果を十分検討し考察することで、思考力や判断力をさらに高めていく。考察において、自分の考えを文章化することで表現力を高めたり、身近な物と学んだことと関連付けて考えたりして、定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より5.5ポイント高い。 ○ヘチマの季節ごとの成長の様子についての問題や、人体の関節について問題では正答率が100%で、市の平均より12.7ポイント高い。	・恵まれた学校環境を生かし、四季の移り変わりや周辺環境にある動植物の観察の機会を多く設けることで、児童の興味・関心を高めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は市平均より8.6ポイント高い。 ○天気による気温の変化の様子を表したグラフを読み取り説明する問題では、市の平均より27.6ポイント高い。 ●砂の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係について説明する問題では、市の平均より10.2ポイント低い。	・観察や実験等を充実させることにより、実体験から確実な学習内容の理解へと繋げていく。また、模型や動画で確認することにより、学習内容の定着を図る。方位の捉え方や、温度計の使い方については、理科の時間だけでなく、学校生活の様々な場面で取り入れ、技能面の習得を図る。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「理科の授業の内容はよく分かりますか。」「理科の授業は好きですか。」「理科の学習は、将来のために大切だと思いませんか。」等の設問において、肯定割合がすべて100%と理科の学習への意欲が非常に高い。

○「授業で身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定割合は100%であり、県や市の平均より高い。今後も、児童が今興味をもっていることや、日常生活で体験していることを入り口に、「なぜ学ぶのか」を伝えていく。

○「授業を集中して受けている。」や「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」の設問において、肯定割合がすべて100%と高い。今後も、多様な学習活動を導入、授業に集中し生徒が能動的に参加できる活動を取り入れていく。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の復習をしている。」「家で、授業の予習をしている。」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の設問で肯定割合が県の平均より低い。学校や学童で学習を終わらせ、家での学習時間を確保できていない児童が多く、家庭学習の定着が図れていない。家庭学習の内容を自分で考えられるように、学習例を示したり、意欲を高められるような働きかけを、児童と保護者双方にしていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書く。」の設問で肯定割合が県の平均より低い。話す活動と、書く活動の連動を行い、書いた文章をグループ内で共有したり、発表の準備として活用したりすることで、書くことの意義を感じさせ、書く力を伸ばしていく。

宇都宮市立清原北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や 成就感を高める授業づくり	・めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり ・児童の意欲を喚起するデジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や板書、授業展開の工夫	「授業の中で、目標が示されている。」の肯定割合は、5年生が100%、4年生が95.0%であった。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」では、5年生が80.0%、4年生が80.0%であった。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」では5年生は93.3%、4年生は75.0%だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・話し合い活動に進んで参加することや自信をもって意見を言うことを苦手と感じている児童が多い。 ・自分の考えを文章にまとめて書くことを苦手とする児童が多い。 ・家庭での学習時間を確保できていない児童が多く、家庭学習の定着が図れていない。	・話し合い活動の充実 ・書く力を高めるための指導 ・家庭学習の充実	・朝の会や集会のスピーチ、各教科での話し合いの時間の充実を図ったり、児童が話したくなるような課題を設定したりする。 ・書く力を高めるために、基礎的な知識の習得を図るに加えて、指定された用語を用いて説明する活動を意図的に取り入れる。また、字数を制限したり、短い言葉で要点をまとめたりしながら文章を書く活動を多く行うようにする。 ・家庭学習の時間を確保できるよう、保護者に協力を呼び掛けたり、児童が家庭学習の内容を自分で考えられるように、学習例を示したりする。